

令和7年度 事業報告書

滋賀留学支援コンソーシアム

令和5年度～令和7年度 未来を描け！滋賀の海外留学応援プログラムに御支援をいただいた企業様



目次

令和7年度 事業報告書・・・・・・・・・・P1～26

令和7年度 収支決算書・・・・・・・・・・P27

令和7年度 事業報告書

1 事業実施スケジュール

	令和7年度派遣留学生関係	令和8年度派遣留学生関係
(参考) 令和6年度		
令和7年 1月～3月	第一日程 (新高校2・3年生／新高校1年生) 応募受付、書面審査	
令和7年度		
4月	第二日程(新高校1年生) 応募受付、書面審査	
5月11日	面接審査	
6月14日	壮行会・事前オリエンテーション	
7月～12月	留学期間	
令和8年 1月24日	事後オリエンテーション	
2月7日	成果報告会	
2月～3月		第一日程 (新高校2・3年生／新高校1年生) 応募受付、書面審査

2 事業内容

(1) 令和7年度派遣留学生関係

ア 生徒の選考

- 選考結果：応募者60名(26校)のうち、辞退者4名を除き、56名(25校)を採用(別添1参照)

日程区分	応募者	辞退者	採用者
第一日程(新高校2・3年生／新高校1年生)	58名	4名	54名
第二日程(新高校1年生)	2名	-	2名
合計	60名	4名	56名

➤ 選考方法

・書面審査

審査期間：

- ①第一日程(新高校2・3年生／新高校1年生)：令和7年3月下旬～4月上旬
- ②第二日程(新高校1年生のみ)：令和7年4月下旬

・面接審査

審査日：令和7年5月11日(日)@滋賀県立県民交流センター

➤ 選考委員

学識経験者・民間企業関係者・高校関係者による3人一組の選考委員を5組構成

イ 壮行会・事前オリエンテーション

- 日時等 令和7年6月14日(土)9時～12時30分 @滋賀県庁新館7階大会議室
- 内容
 - [壮行会] 知事挨拶、支援企業紹介、教育長挨拶、派遣留学生代表決意表明、集合写真
 - [事前オリエンテーション] 出席企業紹介、派遣留学生と支援企業との交流会、派遣留学生探究活動シェア、講演「多文化共生について」(滋賀県総合企画部国際課)、OBOG 生留学体験談発表、事務連絡(安全管理など)
- 参加者
 - ・ 派遣留学生54名
 - ・ 支援企業6社7名 ※敬称略
株式会社尾賀亀、関西みらい銀行、滋賀銀行、滋賀中央信用金庫
第一生命保険株式会社滋賀支社、株式会社日吉
 - ・ 滋賀留学支援コンソーシアム関係者2名
滋賀県高等学校長協会長、滋賀県総合企画部国際課長
 - ・ 選考委員 滋賀県立甲南高等学校長
 - ・ マスコミ 京都新聞
- 開催の様子
 - ・ 京都新聞朝刊18面
 - ・ 別添2 参照



←支援企業と派遣留学生の交流
「滋賀の企業を通じて世界を知る」と題して、支援企業関係者様より、企業のお取組や社会で求められる力などについてお話しいただき、生徒にとって貴重な学びの機会となりました。



派遣留学生の探究活動シェア

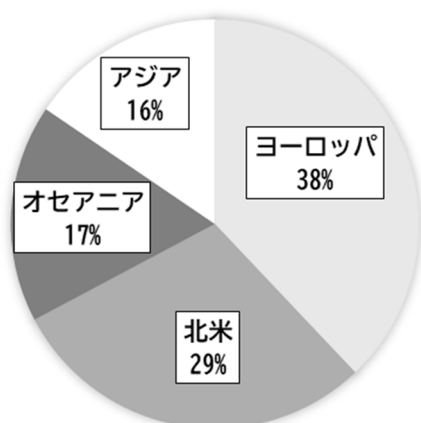


OBOG 生留学体験談発表

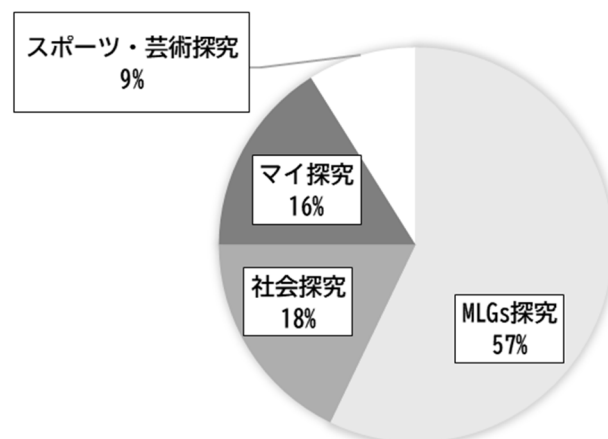
ウ 海外留学

➤ 留学状況

留学先地域（延べ５８名）

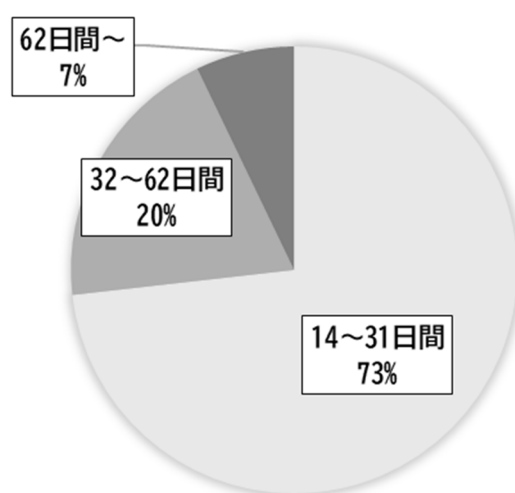


探究コース（５６名）



※留学先地域別の人数については、派遣生徒 56 名のうち、2人組で2か国に留学したチームが1組あるため、留学先地域の合計人数は延人数で表記している。

留学期間（５６名）



➤ 留学における事務局フォロー体制

・ 留学出発前

滋賀留学支援コンソーシアム事務局（県高校教育課）から生徒へ、留学中の安全に対する注意喚起・入国連絡、帰国連絡の依頼等についてメール連絡。

・ 荒天やシステム障害、留学先での政治不安の報道等があった場合

滋賀留学支援コンソーシアム事務局から生徒へ、留学中の安全および留学エージェントや航空会社に不測の事態における対応を確認するよう注意喚起。

・ 帰国後

滋賀留学支援コンソーシアム事務局から生徒へ、安否確認のメール連絡。

→ 56 名全員が無事に帰国

➤ 留学結果

留学事例（別添 3-1、3-2、3-3）参照

エ 事後オリエンテーション

- 日時等 令和8年1月24日(土)10:00~12:00 @大津市ふれあいプラザ
- 目的 事前研修と留学を振り返りながら、留学経験および探究活動を通して学んだことや活動の成果について振り返り、成果報告会の準備を行う。
- 内容 プレゼンのポイントについてのセミナー(講師:立命館大学 山末教授)
グループワーク(留学成果の共有、成果報告会発表資料のブラッシュアップ)
- 参加者 派遣留学生 52名(欠席者4名)

オ 成果報告会

- 日時等 令和8年2月7日(土) 9:30~12:30 @滋賀県庁新館7階大会議室
- 内容 **別添4 参照**
 - ・開会、知事挨拶(副知事代読)、教育長挨拶、来賓紹介
 - ・成果報告(派遣留学生を5グループに分け、各ブースにて発表+質疑応答)
- 参加者 派遣留学生 51名(欠席者5名)
支援企業関係者 9名
(大崎設備工業株式会社1名、株式会社尾賀亀2名、湖北工業株式会社1名
株式会社滋賀銀行1名、滋賀中央信用金庫1名、有限会社T&S1名
トヨタモビリティ滋賀株式会社1名、株式会社たねや1名)
滋賀留学支援コンソーシアム関係者5名
(滋賀県商工会議所連合会専務理事、環びわ湖大学地域コンソーシアム事務局長、
滋賀県高等学校長協会会長、滋賀県総合企画部国際課長、滋賀県国際協会常務理事)
その他保護者・教員・一般観覧者等 27名

(2) 令和8年度派遣留学生関係

ア 生徒募集

- 「未来を描け!滋賀の海外留学応援プログラム」概要
 - ・ 滋賀県の高等学校に在籍する生徒等に対し、諸外国等への留学に必要な費用の一部を留学支援金として支給。
 - ・ 留学の前後にオリエンテーションの提供および留学後の継続的な学修や交流の場を提供。
 - ・ 生徒等が自ら立案・作成した探究活動を含む留学を支援。
 - ・ 生徒等は留学先において日本や滋賀県の良さを発信するアンバサダー活動、留学中や帰国後には留学機運醸成に寄与すべく、留学の魅力や留学で得た体験を周りに伝えるエヴァンジェリスト活動にそれぞれ取り組む。
- 募集人数
 - ・ 50名程度
- 募集対象生徒
 - ①滋賀県内の高等学校、中等教育学校後期課程、特別支援学校高等部、専修学校高等課程に在籍する日本人生徒等応募コース
 - ②広域通信制高等学校に在籍し滋賀県内の通信教育連携協力施設において通信教育を受けている生徒のうち滋賀県に居住している日本人生徒等

➤ 応募コース

コース	コースの概要
一般探究コース	
社会課題探究コース	Society5.0やSDGsをふまえ、世界・日本・地域が抱える社会課題を自分ごととして問いを設定し、課題解決や活性化、SDGs、社会貢献に寄与することを目的に行う探究活動が含まれた留学計画。
STEAM探究コース	STEAM（科学・技術・工学・芸術・数学）領域における問いを設定した探究活動を含む留学計画や、問いに対してAIやIoT、理科の見方・考え方や数学的な見方・考え方を活用しながら行う探究活動が含まれた留学計画。
スポーツ・芸術探究コース	実技経験や実績の有無にかかわらず、スポーツ・芸術分野における問いを設定し、当該分野の更なる発展に寄与することを目的に行う探究活動が含まれた留学計画。
地域探究コース <u>（各探究4人までのチーム応募可）</u>	
MLGs探究コース	「琵琶湖」を切り口とした持続可能な社会の実現のために、滋賀で策定した13の目標であるMLGsから1つ、または複数選び、テーマを定め、地域課題の解決や地域貢献に向けて探究する留学計画。
【新】ものづくり産業探究コース	滋賀県は、全国有数の工業県であり、地場企業・中小企業等が県経済を支えているという特性を踏まえ、地元の技術・産業の価値を理解し、海外で、ものづくり産業を学ぶ留学計画。海外で活躍する企業の取組や、専門性を磨き挑戦するマインドに触れることで、産業の発展や将来的な起業につながる視点を学ぶコース。
【新】農業・森林産業探究コース	滋賀県は、「森・里・湖（うみ）に育まれる漁業と農業が織りなす琵琶湖システム」がFAOにより「世界農業遺産」として認定されている。世界の先進地で行われている自然環境を守りながら付加価値を生み出す農林業のモデルや、産業やビジネスの視点を取り入れながら、農林業の可能性などを探究する留学計画。
【新】滋賀と世界をつなぐマイ探究コース	上記3つの地域探究コース以外の分野（例：郷土文化、医療、言語、福祉、観光、多文化共生社会など）において、県の特性を意識しながら学ぶ留学計画。

➤ 留学支援金

	留学先地域	支給金額
支援金	アジア地域	300,000 円
	その他の地域	500,000 円

➤ 留学期間

令和8年8月1日～令和8年10月31日の間で、12日以上92日以内に設定。

➤ 募集期間

〔第一日程（新高校2・3年生／新高校1年生）〕 令和8年2月20日～3月18日

〔第二日程（新高校1年生）〕 令和8年4月8日～15日

➤ 応募状況

※応募状況については、令和8年度派遣生徒の募集に係る状況を示すため、第一日程および第二日程の応募を合わせて記載している。

・ 選考結果

応募数 50名 15校

採用数 49名 15校

・ 採用校名

(県立) 11校 36名

大津 3名、国際情報 1名、膳所 3名、虎姫 4名、東大津 3名、彦根工業 2名、

彦根翔西館 1名、彦根東 3名、米原 5名、水口東 5名、守山 6名

(私立) 4校 13名

近江 3名、近江兄弟社 2名、MIHO 美学院 1名、立命館守山 7名

➤ 選考方法

・ 書面審査

審査期間: 令和8年3月下旬～(4月下旬)

※面接審査については、令和8年5月9日に実施

3 滋賀留学支援コンソーシアム

【役員会】

(1) 第1回役員会(書面開催)

➤ 令和7年7月1日(火) 開催依頼

議決事項: 令和6年度 事業報告書(案)、令和6年度 収支決算書(案)、

令和7年度 事業スケジュール(※報告案件)

全案件について可決

(2) 第2回役員会(書面開催)

➤ 令和8年2月12日(木) 開催依頼

議決事項: 令和8年度 事業計画(案)、令和7年度 事業進捗状況(※報告案件)

全案件について可決

【運営部会】

(1) 第1回運営部会

➤ 日時等 令和7年5月30日(金) 10時～11時 @滋賀県庁本館連絡通路4A会議室

➤ 出席者 一般社団法人滋賀経済産業協会 専務理事 川西 民雄 ※敬称略

一般社団法人環びわ湖大学・地域コンソーシアム 事務局長 近藤 茂生

滋賀県総合企画部国際課 管理監 荻野 大

滋賀県子ども若者部子ども若者政策・私学振興課 課長 川副 馨

滋賀県教育委員会高校教育課 課長 岸村 米和

➤ 協議事項 令和6年度 事業報告書(案)、令和6年度 収支決算書(案)、

令和7年度 事業スケジュール(※報告案件)、その他意見交換

(2) 第2回運営部会

- 日時等 令和8年1月27日(火)10時～11時 @滋賀県庁 本館連絡通路4A会議室
- 出席者 一般社団法人滋賀経済産業協会 専務理事 川西 民雄 ※敬称略
一般社団法人環びわ湖大学・地域コンソーシアム 事務局長 近藤 茂生
滋賀県総合企画部国際課 管理監 荻野 大
滋賀県子ども若者部子ども若者政策・私学振興課 課長 川副 馨
滋賀県教育委員会高校教育課 課長 岸村 米和
- 協議事項 令和8年度 事業計画(案)、令和7年度 事業進捗状況(※報告案件)、その他意見交換

4 総括 未来を描け!滋賀の海外留学応援プログラムの推進

(1) 令和7年度派遣留学生関係

- ・「未来を描け!滋賀の海外留学応援プログラム」については、前年度を上回る多数の応募があり、56名の生徒を海外へ派遣
- ・事前オリエンテーション・壮行会、事後オリエンテーション、成果報告会を通じて、探究活動の充実および留学成果の発信を支援
- ・多様な国・地域での留学や探究活動を通じて、社会課題の解決に主体的に取り組む人材の育成につなげるとともに、県内高校生の海外留学機運を醸成

(2) 令和8年度派遣留学生関係

令和8年度に向けては、地域社会の発展に貢献できる人材育成に向けて、本県の地域特性を踏まえた探究コースを拡充し、地域への還元性を意識したプログラムづくりを進めた。

5 今後の課題

令和8年度以降は、これまでの壮行会・事前オリエンテーション、事後オリエンテーション、成果報告会の課題を踏まえ、内容の充実に取り組む。

また、高校生にとって魅力ある留学コースの設定、企業の参画促進、寄附しやすい環境づくり、事業の広報・成果発信の強化に取り組む。

6 寄附金の管理および今後の活用について

- ・令和5年度から7年度まで、日本学生支援機構・文部科学省「トビタテ!留学 JAPAN 新・日本代表プログラム 拠点形成支援事業」として実施してきた本事業は、令和7年度をもって当該事業として終了します。
- ・令和8年度以降は、日本学生支援機構等と引き続き連携しながら、県独自の事業として継続して実施します。
- ・令和5年度から7年度までに企業・団体および個人の皆様からいただいた寄附金は、県の子ども・若者基金に積み立てて適切に管理するとともに、その残額は、令和8年度以降の県独自の留学支援事業に有効に活用してまいります。
- ・寄附金の受入れおよび活用状況等は、以下のとおりです。

(1) 寄附金の受入状況

年度	寄附金額	内訳
令和 5 年度	10,800,000 円	企業・団体 16 社、個人 1 者
令和 6 年度	6,902,643 円	企業・団体 11 社、個人 1 者、滋賀応援寄附（ふるさと納税）
令和 7 年度	920,000 円	企業・団体 2 社、個人 1 者
合計	18,622,643 円	寄附件数 : 企業・団体 29 件、個人 3 件 寄附者数（重複除く）: 企業・団体 28 社、個人 2 者

(2) 寄附金の活用状況

内容	金額
令和 5 年度事業への充当額	417,897 円
令和 6 年度事業への充当額	4,938,909 円
令和 7 年度事業への充当額	9,943,341 円
合計	15,300,147 円

(3) 寄附金の使途

使途	金額	構成比
派遣留学生への奨学金・留学準備金	14,882,250 円	97.3%
人件費、会場使用料等の事務経費	417,897 円	2.7%
合計	15,300,147 円	100%

(4) 寄附金残額の管理および今後の活用

- ・令和 7 年度末時点の寄附金残額は 3,322,496 円です。
- ・当該寄附金は県の子ども・若者基金に積み立てて適切に管理しており、令和 8 年度以降の県独自の高校生留学支援事業に活用します。

7 留学成果ダイジェスト

☆未来を描く派遣生徒たちの声☆

✓ 立命館守山高等学校 Hさん（留学先：オーストラリア/MLGs 探究コース）

「『英語が苦手だから』『自分には向いていないかも』と諦めるのではなく、『新しい自分に出会うチャンス』と捉えて挑戦してほしいです。留学は、人生の大きな転機となり、自分の可能性を広げる貴重な経験になるはずですよ。」

✓ 綾羽高等学校 Sさん（留学先：大韓民国/スポーツ・芸術探究コース）

「様々な国から来た留学生と話す中で、世界には自分が知らない現実がたくさんあることを知りました。平和な環境で学べる事は決して当たり前ではないと気づかされました。この経験を通して、世界にはいろいろな生き方や価値観があることを学び、もっと多くのことを学びたいという気持ちが強くなりました。」

✓ 米原高等学校 Uさん（留学先：フィリピン/社会課題探究コース）

「ハプニングを経験し、自分、もしくは他の人に自分で助けを求めて解決する機会を得ることができるところです。ハプニングは『なにか』に挑まないと起こりません。その『なにか』に、留学はピッタリだと思います。」

✓ 湖南農業高等学校 Nさん（留学先：アメリカ/スポーツ・芸術探究コース）

「外国に行って一人で生活することはとても勇気がいるものだと思いますが、親や周囲に頼ることができない分、個人として沢山成長できます。すべて自分一人で行動したり考えたりしないといけなくて自立できるようになります。人生において1回は経験したほうがいいくらい、価値のあるものでした。」

✓ R高等学校 Sさん（留学先：英国/スポーツ・芸術探究コース）

「西洋の歴史や宗教、美術や建築を直接自分の目で見て、日本とは異なる価値観や美意識があることを実感しました。その一方で、日本の伝統色や折り紙など、自分が持っている文化の魅力にも改めて気づくことができました。留学は、技術を学ぶだけでなく、自分自身の表現の視野を広げる大切な時間でした。」

☆滋賀から世界へ、広がる挑戦☆

トビタテ！留学JAPAN（H27～）



トビタテ！留学JAPAN 地域拠点形成推進事業
未来を描け！滋賀の海外留学応援プログラム
(R5～R7)



➤ 日本学生支援機構の「トビタテ！留学JAPAN」
で留学した生徒数 H27～R7

10年間 計36名

➤ 「未来を描け！滋賀の海外留学応援プログラム」
での派遣留學生徒数

R6（滋賀県第1期）：38名

R7（滋賀県第2期）：56名

2年間 計94名

令和7年度派遣留学生一覧

No.	コース	学校	留学計画のタイトル	留学 日数	留学先国
1	MLGs探究	滋賀学園高等学校	琵琶湖を世界中から知られ、そして愛される有名な湖へ！！	16	602_ニュージーランド
2	MLGs探究	膳所高等学校	自然と都市の共存の仕方を学び、将来的に多くの人が住みやすい滋賀に何が必要か考える	26	501_カナダ
3	MLGs探究	膳所高等学校	豊かな自然の保護や林業での地産地消の実現について	33	501_カナダ
4	MLGs探究	立命館守山高等学校	琵琶湖で世界に打って出る ～To Be The Famous Shiga～	73	601_オーストラリア
5	MLGs探究	立命館守山高等学校	ファーストベンギンになってやる！湖魚の海外市場への販路を多様化するためのヒントを得る～	21	104_カンボジア
6	MLGs探究	立命館守山高等学校	未来を見据えた環境保全活動で美しい自然をいつまでも	26	501_カナダ
7	MLGs探究	立命館守山高等学校	子どもたちにとって幸せな「教育」の形とは？	84	714_デンマーク
8	MLGs探究	立命館守山高等学校	ニュージーランドのフィールドスタディで滋賀県の学校の先生志願者不足について解決策を考える	85	602_ニュージーランド
9	MLGs探究	虎姫高等学校	ハワイの観光計画「DMAP」からエコツーリズムを学び滋賀のMLGsに繋げよう	19	502_アメリカ合衆国
10	MLGs探究	大津高等学校	世界における地産地消の意識とその取り組み	19	501_カナダ
11	MLGs探究	大津高等学校	オーストラリアの「持続可能な観光」を学び、多文化主義社会で違いにふれ視野を広げる	26	601_オーストラリア
12	MLGs探究	八日市高等学校	シンガポールから学ぶ琵琶湖を守るために私たちができること	19	191_シンガポール
13	MLGs探究	守山高等学校	ロンドンでのプラスチックに対する市民意識と取り組みから琵琶湖を見つめる	19	737_英国
14	MLGs探究	米原高等学校	カナダで学ぶ観光と環境の共生	21	501_カナダ
15	MLGs探究	米原高等学校	持続可能な観光をニュージーランドから学び、エコツーリズムで滋賀県の未来を変える！	19	602_ニュージーランド
16	MLGs探究	彦根東高等学校	滋賀県の郷土料理をおいしいと思ってもらうためにどうすればよいか	14	602_ニュージーランド
17	MLGs探究	彦根東高等学校	イギリスから学ぶエシカル消費の考え方と取り組み	19	737_英国
18	MLGs探究	彦根東高等学校	琵琶湖の保全活動拡大と自己の成長を目指す	14	601_オーストラリア
19	MLGs探究	彦根工業高等学校	カーボンニュートラルの取り組み紹介とペット課題調査&インターンシップと関西万博招致	14	717_ドイツ
20	MLGs探究	石山高等学校	トロントの公園等を参考に滋賀県にとって効果的な景観維持の方法を考察する	19	501_カナダ
21	MLGs探究	石山高等学校	誰もが楽しめる琵琶湖へ！観光アクセシビリティの探求	19	737_英国
22	MLGs探究	石山高等学校	人と環境のため、食品ロス軽減のためにできることを学ぶ	32	502_アメリカ合衆国
23	MLGs探究	草津東高等学校	自己の成長と琵琶湖の活性化をはかる	29	501_カナダ
24	MLGs探究	草津東高等学校	自己の成長と琵琶湖の活性化をはかる	29	501_カナダ
25	MLGs探究	近江高等学校	琵琶湖と共に生きる：サステナブルな砂浜の守り方と地域社会との連携について	19	501_カナダ
26	MLGs探究	米原高等学校	琵琶湖と共に生きる：サステナブルな砂浜の守り方と地域社会との連携について	19	501_カナダ
27	MLGs探究	守山高等学校	海外から学ぶ琵琶湖を中心とした豊かな滋賀県づくり	14	737_英国
28	MLGs探究	守山高等学校	海外から学ぶ琵琶湖を中心とした豊かな滋賀県づくり	14	737_英国
29	MLGs探究	彦根東高等学校	琵琶湖を観光資源として活かすために～湖の観光活用が地域経済に与える影響の分析～	19	737_英国
30	MLGs探究	彦根東高等学校	琵琶湖を観光資源として活かすために～湖の観光活用が地域経済に与える影響の分析～	19	737_英国
31	MLGs探究	石山高等学校	琵琶湖と観光～琵琶湖の活用とよりよい滋賀の発展・活性化の方法について～	14	737_英国 105_中国
32	MLGs探究	石山高等学校	琵琶湖と観光～琵琶湖の活用とよりよい滋賀の発展・活性化の方法について～	14	737_英国 105_中国
33	スポーツ・芸術探究	近江兄弟社高等学校	「誰にとっても演劇やミュージカルをより日常的に！」本番イギリスでその魅力を探る	35	737_英国
34	スポーツ・芸術探究	彦根東高等学校	アメリカのバスケットボールのレベルが日本に比べて高い要因を知る	14	502_アメリカ合衆国
35	スポーツ・芸術探究	湖南農業高等学校	唯一無二なダンサーをめざすためにーアメリカと日本のいいとこどりー	34	502_アメリカ合衆国
36	スポーツ・芸術探究	綾羽高等学校	K-popダンスは、心の悩みやストレス解消に効果があるか	19	109_大韓民国
37	スポーツ・芸術探究	R高等学校	アートを通じた自己成長と滋賀の若者へ異文化交流の大切さを伝える	19	737_英国
38	マイ好奇心探究	彦根翔西館高等学校	動物と人が共生する社会を実現するには	19	724_マルタ

令和7年度派遣留学生一覧

No.	コース	学校	留学計画のタイトル	留学 日数	留学先国
39	マイ好奇心探究	膳所高等学校	アイルランドの文化を通して、伝統の継承と文化を誇ることについて学ぶ	33	721_アイルランド
40	マイ好奇心探究	玉川高等学校	課題解決に向け自分から行動を起こし人に積極的に話を聞きに行く	54	601_オーストラリア
41	マイ好奇心探究	虎姫高等学校	ブライトンで日本がLGBTQに対する理解を深めるための鍵を見つける。	28	737_英国
42	マイ好奇心探究	守山高等学校	人はなぜ学ぶのだろうか。	40	502_アメリカ合衆国
43	マイ好奇心探究	国際情報高等学校	日韓関係のリアルを若者目線で紐解いて、日韓を繋ぐ架け橋になりたい！	33	109_大韓民国
44	マイ好奇心探究	東大津高等学校	ポジティブになろう！～ポジティブの秘訣～	17	502_アメリカ合衆国
45	マイ好奇心探究	水口東高等学校	エシカルコスメの普及率の差の本質とは何か環境意識の違いという側面から探る	18	737_英国
46	マイ好奇心探究	水口東高等学校	日本とニュージーランドの教育を比較し、日本に必要な教育とは何かを探る！	21	602_ニュージーランド
47	社会課題探究	近江兄弟社高等学校	日韓における精神疾患への偏見と支援の取り組みの調査	33	109_大韓民国
48	社会課題探究	立命館守山高等学校	先進国におけるホームレスとビッグイシューの関わり	14	737_英国
49	社会課題探究	比叡山高等学校	イギリスで助け合い文化を学び慈善活動で日本の問題を解決する方法を考える。	54	737_英国
50	社会課題探究	M I H O美学院中等教育学校	セクシャル・マイノリティに寄り添った活動を滋賀県に！	70	501_カナダ
51	社会課題探究	大津高等学校	労働生産性が高い国で教員の働き方を学び日本の教員の人手不足解決への道を探る	82	721_アイルランド
52	社会課題探究	米原高等学校	イギリスにおいて地域に根付くこどもホスピスの実態調査と日本に生かせる点の発見	22	737_英国
53	社会課題探究	米原高等学校	フィリピンでの日本語教師の体験を通じて学ぶ日本語教育の在り方	21	117_フィリピン
54	社会課題探究	米原高等学校	動物・植物・人の共存について学ぶ	26	602_ニュージーランド
55	社会課題探究	河瀬高等学校	国際ボランティア活動を通して子どもたちの笑顔を増やす	19	117_フィリピン
56	社会課題探究	水口東高等学校	ドイツから学ぶ今後の滋賀県における動物愛護の在り方考える	14	717_ドイツ

未来を描け 滋賀の海外留学応援プログラム

発行：滋賀留学支援コンソーシアム事務局（滋賀県教育委員会事務局高校教育課内）

Newsletter
#1
2025.8.29

2025年度 県内25校 57名の派遣を決定！ 6/14（土）壮行会・事前オリエンテーションを開催！



➤ 高校生の海外留学支援事業「未来を描け！滋賀の海外留学応援プログラム」の2025年度派遣留学生に県内25校 57名の生徒を決定しました！

➤ 6月14日（土）に、滋賀県庁にて、壮行会・事前オリエンテーションを開催し、三日月知事・村井教育長から生徒へ激励の言葉をいただき、派遣留学生代表生徒からの決意表明がありました。

➤ このプログラムは、生徒自身の興味関心に基づくテーマによる探究活動を伴う海外留学を事前・事後研修、奨学金の給付などにより支援するもので、当日は御寄附を支援いただいた企業様もお越しいただきました。

➤ 今後、生徒たちは、7～12月の間に、それぞれが設定した留学期間に応じて留学に出発します。令和8年2月7日（土）に成果報告会を開催する予定です。

➤ 海外へ出発していく生徒たちを応援していきます！

三日月知事・村井教育長からの激励の言葉



代表生徒決意表明



生徒と支援企業の方との交流



『未来を描け！滋賀の海外留学応援プログラム』に御支援いただいた皆様

公益財団法人
河本文教福祉振興会

KOHOKU

関西みらい銀行

SHIGA BANK

ITOCHU

伊藤忠商事

近江鍛冶株式会社

近江鍛冶株式会社

新木産業株式会社

新木産業株式会社

大塚産業マテリアル

GATE-GROUP

キシステム株式会社

OSK 大崎設備工業

第一生命
Dai-ichi Life Group

滋賀中央信用金庫

草津電機

SOBIT
日本ソフト開発株式会社

HIYOSHI
Ecological Services

株式会社ナカサキ

YANMAR

Make History
Ogakame

千寿草風土

ICHIKIN
新市金工業社

住友生命

東京海上日動

鉄屋商事株式会社

川島酒造株式会社

有限会社 T&S 塚本サルチャー様 匿名3者

「未来を描け 滋賀の海外留学応援プログラム」

滋賀県は文部科学省「2023 年度官民協働海外留学支援制度～トビタテ！留学 JAPAN 新・日本代表プログラム～「拠点形成支援事業」に採択され、令和 6・7 年度で計 94 名の高校生を 23 か国に派遣してきました。

本事業を通して、高校生一人ひとりが、不安を抱えながらも未知の世界へ飛び込み、失敗と挑戦を繰り返して、「新しい自分」を手にしてきました。

本資料では、滋賀県から世界へ羽ばたき、ひと回りもふた回りも大きく成長して帰ってきた高校生たちの、生の声を紹介します。本資料に登場する一人ひとりの言葉には、教室の中だけでは得られない学びと、世界と真正面から向き合った時間の重みが込められています。

滋賀県は、こうした挑戦を通して育まれる「自ら考え、行動し、未来を切り拓く力」こそが、これからの社会を支える原動力になると確信しています。

世界に出た経験は、決して特別な誰かのものではありません。

本資料が、次の一步を踏み出そうとする高校生や、その背中を支える多くの方々にとって、新たな挑戦への勇気となることを願っています。



滋賀県教育委員会
教育長 村井 泰彦

01 | 地域で支え、世界で育つ。



— 未知の環境へ飛び込んだ滋賀の高校生たちの挑戦 —



派遣留学生 A さん



留学先：フィリピン

活動内容：観光客があまり行かない地域に自ら入り込み、子供たちへ「色彩感覚」の調査や文化交流を実施。

成果：言葉の壁を越えるため、シールを使った独自の調査を実施。

派遣留学生の声：

「この留学で新しい世界への一步を踏み出すことへの不安は大きく、自分自身の決断で海外へ飛び立つことは大きな挑戦でもありました。しかし、自分が没頭できる分野で留学ができたことで、より深い学びを得ることができました。」

派遣留学生 B さん



留学先：イギリス

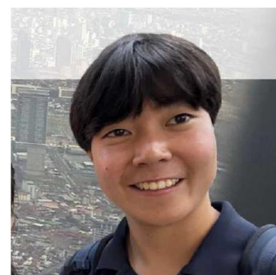
活動内容：ロンドンのテムズ川で水質調査を実施するため、現地の環境省へ自らアポイントを取り交渉。

成果：頼れる大人がいない中、拙い英語で粘り強く交渉し調査許可を獲得。

派遣留学生の声：

「現地で思い切って話してみると、相手は頷いてくれて、大いに手応えや安堵感を得ることができました。この経験から得た挑戦する心、恐れない心をもって、これからも積極的にぶつかっていきたいです。」

派遣留学生 C さん



留学先：カンボジア

活動内容：滋賀の湖魚文化の販路拡大を目指し、現地の食品会社にインターンとして飛び込み共同開発。

成果：現地の食文化やニーズに合わせる「顧客視点」の重要性を肌で学ぶ。

派遣留学生の声：

「現地での実体験を通して、机の上の勉強だけでは分からないことを理解できることも実感しました。少し背伸びして挑戦することで得られる学びや気づきの大切さを実感し、自分自身の成長につながる経験になったと思います。」

派遣留学生 Dさん



留学先：カナダ

活動内容：都市と自然が共生するバンクーバーで、人々の環境保全意識と公園の利用実態についてアンケート。

成果：五感を通した「ライブ感」のある学びと、単独で行動する自信獲得。

派遣留学生の声：🎙

「最初はすべて英語での会話に挫折しましたが、チャレンジ精神を忘れずに取り組んだ結果、現地での探究活動もスムーズに行うことができ、なにより一人で行動することへの自信がつかしました。私が考える留学の価値は、現地だからこそ『生の体験（ライブ感）』にあると考えています。」

派遣留学生 Eさん



留学先：デンマーク

活動内容：幸福度の高い国の教育を学ぶため現地の学校に留学。全校生徒に日本食を振る舞うイベントを主催。

成果：周囲に合わせるのではなく、自分らしく生きるという価値観の転換。

派遣留学生の声：🎙

『人は幸せになれる』という発見。この留学がなければ絶対にそんなことはわかりませんでした。考え方が180度変わりました。この留学は私の人生を完全に変えてくれた、ある種の『恩人』だといえます。人生で一番楽しい時間でした。」

派遣留学生 Fさん



留学先：ニュージーランド

活動内容：エコツーリズムを通じた地域経済の活性化を調査。観光客に環境を守る意識を持たせる仕組みを学ぶ。

成果：現地で得た情報をもとに、その日のうちに別施設へアポを取り訪問。

派遣留学生の声：🎙

「現地で私の探究テーマに関連する別の施設を紹介していただき、その日のうちに訪ねてアポイントを取ることができました。留学前の自分では考えられなかった行動力を発揮出来たことに驚きました。この経験から、自ら行動すれば新しいチャンスが広がるということを学びました。」

派遣留学生 Gさん



留学先：カナダ

活動内容：オンタリオ湖の水質改善の歴史を調査し、行政や市民が一体となった琵琶湖保全へのヒントを探究。

成果：生活の全てを自分で決める環境で、責任感と積極性などが飛躍的に向上。

派遣留学生の声：🎙

「留学を通して最も成長したのは、自分で考え行動する主体性です。生活や学習の多くを自分で決めなければならず、責任感が自然と身に付きました。また、知らないことだらけだったので、進んで現地の人に質問するコミュニケーション力も向上しました。」

派遣留学生 Hさん



留学先：アメリカ

活動内容：滋賀県産木材を使ったお箸作り教室を開催。ファーマーズマーケットの在り方から地域社会を学んだ。

成果：多様な人種・宗教の人々とフラットに関わる真のグローバル感覚を習得。

派遣留学生の声：🎙

「この留学を通して世界中に友達ができただけでなく、今まで自分が見ていた世界は小さすぎたことに気がつきました。自分の世界を大きく広げられることこそが、留学の1番の価値だと思います。」

派遣留学生 Iさん



留学先：ドイツ・フランス

活動内容：ヤンマーの欧州拠点（YCEE）にてインターンシップ。グローバルな製造・開発現場の業務を実地体験。

成果：世界トップレベルの技術と組織運営、働く姿勢を肌で感じ、国際的な視野とキャリアビジョンを持つ。

派遣留学生の声：🎙

「今回の留学を通して、国際的な視野と技術者としての目標をより明確にすることができました。ドイツで学んだ環境への意識や働く姿勢を今後の学習や進路に生かし、将来は世界で通用する技術を身につけて社会に貢献できる人になりたいです！」

派遣留学生 Jさん



留学先：イギリス

活動内容：イギリスの観劇文化やエンタメ市場を調査。舞台芸術を身近に感じる仕掛けやビジネスモデルを探究。

成果：留学での学びを行動に移し、帰国後は地元の文化ホールと連携した独自の舞台制作プロジェクトを始動。

派遣留学生の声： 

「私にとっての留学とは、たくさんの経験が出来ることはもちろんですが、1番は新しい自分に出会えることです。帰国してから自分自身の成長を感じています。他言語への関心度も高まりました！イギリスの舞台を見た今、私の地元にある文化ホールと連携し、舞台制作の計画を立てています！」

派遣留学生 Kさん



留学先：ニュージーランド

活動内容：現地の自然保護ボランティアに参加し、外来種の調査や植生復元に繋がる取り組みを実践的に学んだ。

成果：未知の環境に飛び込み、自らアクションを起こすことで揺るぎない自信を獲得。

派遣留学生の声： 

「日本語が通じず、自分の言いたいことがすぐに伝わらない中で、道に迷ったときや友だちをつくるときに、必死に英語で自分の気持ちを伝えました。失敗を恐れずに挑戦する姿勢が自分を成長させてくれるということを学びました。人と繋がる楽しさを知り、自分に自信をもつことができました。」

派遣留学生 Lさん



留学先：アメリカ合衆国

活動内容：ポジティブシンキングに必要なことを探るため、現地の語学学校で41か国、138人にアンケートを実施。

成果：睡眠時間や家族関係など様々な要素からポジティブさを分析。探究力や行動力を獲得。

派遣留学生の声： 

「色んな国の人、色んな考え方があって、みんな尊重しあっています。みんな明るい、フレンドリー、挨拶が大事です。留学の価値は、自分の視野をもっと広げること、もっとポジティブになること、そしていつも支えてくれる両親に感謝することです。」



令和8年2月7日（土）成果報告会より



—世界が教えてくれた、私だけの答え。高校生が語る「留学の価値」—

✓ 派遣留学生 M さん

「『英語が苦手だから』『自分には向いていないかも』と諦めるのではなく、『新しい自分に出会うチャンス』と捉えて挑戦してほしいです。留学は、人生の大きな転機となり、自分の可能性を広げる貴重な経験になるはずです。」

✓ 派遣留学生 N さん

「様々な国から来た留学生と話す中で、世界には自分が知らない現実がたくさんあることを知りました。平和な環境で学べる事は決して当たり前ではないと気づかされました。この経験を通して、世界にはいろいろな生き方や価値観があることを学び、もっと多くのことを学びたいという気持ちが強くなりました。」

✓ 派遣留学生 O さん

「ハプニングを経験し、自分、もしくは他の人に自分で助けを求めて解決する機会を得ることができるところです。ハプニングは『なにか』に挑まないと起こりません。その『なにか』に、留学はピッタリだと思います。」

✓ 派遣留学生 P さん

「外国に行って一人で生活することはとても勇気がいるものだと思いますが、親や周囲に頼ることができない分、個人として沢山成長できます。すべて自分一人で行動したり考えたりしないといけないので自立できるようになります。人生において1回は経験したほうがいいくらい、価値のあるものでした。」

✓ 派遣留学生 Q さん

「西洋の歴史や宗教、美術や建築を直接自分の目で見て、日本とは異なる価値観や美意識があることを実感しました。その一方で、日本の伝統色や折り紙など、自分が持っている文化の魅力にも改めて気づくことができました。留学は、技術を学ぶだけでなく、自分自身の表現の視野を広げる大切な時間でした。」

✓ 派遣留学生 R さん

「英語が完璧にできなくても、自己紹介しか話せないレベルでも、チャレンジ精神があれば海外でもやっていけることが分かり、『なんとかなる』という前向きな気持ちを持てました。留学は、語学力だけでなく、自分の視野を広げ、前向きに行動できる自分へと成長する大きなきっかけになりました。」

✓ 派遣留学生 S さん

「価値観の違う人と共に生活することで世界が広がり、今まで狭い世界でしか生きてこなかった私に新たな考え方を提示してくれました。慣れない環境で生活することに対して不安もありますが、新しい自分に成長できるチャンスとなります。」

✓ 派遣留学生 T さん

「日本では体験し、得ることのできない価値観、知識、考え、文化…様々なことを得ることのできる尊い機会であり、自分が全く想像していなかった『答え』を教えてくれるものです。」

✓ 派遣留学生 U さん

「留学は自分の世界や価値観を大きく変えてくれるものだと思います。日本に住んでいるだけでは知ることのできないものの見方を直接的に感じられるのは、留学してこそ得られるものです。留学後の日本は、良い意味も悪い意味も含め、自分の中で何か違って見えることが、留学の醍醐味だと感じます。」

派遣留学生個人番号 2549107

在籍学校名 立命館守山高等学校

留学状況報告書

1 留学期間

令和7年8月2日～10月24日

2 留学先国・地域

デンマーク

3 活動概要

(1) 探究活動について

・探究活動の問い：子どもたちが幸せに学ぶためには、どのような教育の形をとるべきなのか？

・問いに対して留学前に立てた仮設や想定した答え

座学中心の授業ではなく、積極的にコミュニケーションをとり、実際の「体験」ができる教育。また余裕を持てる時間設定にしていること。

・探究活動の内容

デンマーク発祥・北欧独自の教育機関であるフォルケホイスコーレに3ヶ月間滞在し、その教育の特徴や日本との違い、何が幸せを作っているのかを調査した。具体的には、日本の授業内容とフォルケホイスコーレの授業内容を比較し、その相違点とそれが幸福度に与える影響を探究した。また生徒や教師にアンケート・インタビューを行い、「今幸せかどうか」「その原因はなにか」「何を意識して教育を行なっているのか」などを訊いた。計画に記載されている通りボランティアの授業である“Hands on”の授業にも参加して、ボランティア活動と幸福度の関係に関して調査した。一般の中学校にも訪問し、校長先生にインタビューを行った。さらに、計画では想定していなかったが、現地の国会議員を訪問する機会をいただき、教育やその他事項に関して話を聞くだけでなく、実際に「対話」をすることができた。

・探究活動の成果

簡単にまとめると、大きく3つである。

・「強制」をしないこと。

授業や学校運営、全てにおいて生徒の意見は尊重され、教員や他生徒など誰も強制することはできない。全ては話し合いの後に決まる。

- ・ シンプルにすること。詳細はあえて無視する。

日本の業務や会議などでは非常に細かいことを気にして、とてつもない時間がかかってしまっていることがよくある。詳細はあえて捨てて、現場判断にする。そうすることでむしろ現場の意見が確実に反映されるので、現場と指示者との矛盾はなくなる。授業でも同じく、細かいことはその時になって考える。それでも誰も困らない。

- ・ 自由な時間を与えること

自由な時間が最も重要である。友人と話したり、アートルームで絵を描いたり、暖炉の横でギターを弾いたりそれぞれの生徒が本当に自分の好きなことをする時間。この時間によって「本当に自分がやりたいこと」がわかる。

- ・ 活動する中で、上手くできたことや成功したこと

1つ目は、私自身が完全に幸せになれたことである。日本にいた頃では考えられないほど「幸せ」を感じられるようになり、人生で初めて「これからも生きたい」と感じた。日本にいたときにそれを感じたことはなく、ただひたすら時間に追われるだけの毎日で、未来への希望もなく、生まれたことを後悔するまで思い詰めていた時期もあった。「そんな私が留学して本当に幸せになれるのだろうか」と留学前には不安を感じていた。しかし、そんなことは杞憂だった。やりたいことができるだけでなく、見つける環境。何をしてもポジティブに反応してくれる友人たち。それぞれの個性で生徒を後ろからサポートする教員。全ての瞬間で計り知れないほど幸せを感じられ、日本で感じていた鬱感は一切感じるものがなく、文字通り非の打ち所がない「幸せ」な時間を過ごした。このことによって、幸せになることは、人ではなく環境に依るものだということを強い推測として立てることができた。

2つ目は、国会議員との対話の機会を得られたことである。計画には書いていなかったが、仮説として「幸せな教育を実現するためには、政府の変化も必要なのではないか」と考えており、実現しているデンマークの政府についても何らかの形で探究したいと思っていた。そこで、ダメ元で教員に探究について説明し、デンマーク政府の人とお話しさせていただけないかと尋ねたところ、「やってみよう」と笑顔で言われた。日本では絶対に起こらない優しさ・寛容さを感じた。実際に Følketing (Parliament/国会議事堂)に訪問して国会議員とお話しできると決まった時には、国を挙げて教育に尽力するデンマークの文化を感じた。

- ・ 活動する中で、上手くできなかったことや失敗したこと

生涯学習についての探究があまりできなかったことは失敗だと言える。私が滞在したフォルケホイスコーレは若者向けで、シニア向けとは根本的にシステムが違ったため、生涯学習に関する取り組みはほとんど得られなかった。シニア向けのフォルケホイスコーレの訪問も検討していたが、土日はほとんどしまって

いることと、地理的な影響も加味して断念した。代替して、デンマーク人の友人の祖父・祖母に話を聞き、シニアホイスコーレのあり方やシニア世代の生き方について知見を得た。

・今回の探究活動から得た学びと今後の教訓

今回の探究では、ほとんど情報のないデンマークという地に一人で挑み、インタビューなどを通してさまざまな人々と関わった。とにかく小国で、インターネットにも載っている情報が少ないため、想定していたこととは全く違う状況なども起こり、(良い方向にも悪い方向にも)計画の変更を余儀なくされたことが何度もあった。しかし、そこで新たなアイデアを出してできる限り目的達成に近づける努力をすることによって、計画からは大きく逸れたが探究の成果としては大きなものとなったと考える。このことから、計画の詳細なことにこだわるのではなく、常に目的を再確認し、それに合う新たなアイデアや変更を加えることで、結果的に目的達成につながるのではないかと考えた。特に宿題文化のある日本ではこの感覚をとるのが難しいので、目先の一つ一つのタスクに囚われすぎないように長い目を持つことを意識しようと考えた。

・今回の探究活動を踏まえ、次に取り組みたい探究活動

問い： 日本においてフォルケホイスコーレの考え方、制度を取り入れた学校を作ることは可能なのだろうか

探究活動：留学先での探究活動によってフォルケホイスコーレの仕組みがどのようなものかが分かったため、それをどのようにして日本に持ち込むのか、実際にフォルケホイスコーレのような学校を作れるのか、作ったとして日本人はそこで幸せになれるのか、を軸にして探究を行う。具体的には、帰国後すぐから計画している「1日フォルケ体験」の実施から始め、それによるフィードバックを得て、実際に日本でフォルケホイスコーレという「場所」を作る。「1日フォルケ体験」は計画中で、教育関連のイベントなどでブースという形で実施することを考えている。その後のフォルケホイスコーレの「場所」に関しては、検討中であるが例えば公共の児童館や公民館などと協力して、それを変化させるという形で実施するのが現実的だと考えている。東京で児童館を「本当の子どもの居場所」に変えた事例があり、その施設はフォルケホイスコーレのものと非常に似ているため、その事例を滋養でもできないかと考えた。

(2) アンバサダー活動について

・具体的な活動内容

フォルケホイスコーレならではの生徒がイベントや授業を作ることができることを生かし、ジャパニーズナイトを開催した。ある一夜を利用して、ディナーを日本食にし、夜のアクティビティを企画して日本の文化体験を行った。具体的には、キッチンと協力して、学校全体のディナーをお寿司と唐揚げにした。また、その後夜には任意参加のアクティビティ授業として、日本文化の授業を開催した。習字や日本語の挨拶やスラング、日本画などを伝えた。

他にも、日常的に日本語を教えたり、関西の郷土料理であるお好み焼きパーティーをしたり、カラオケナイトを開いたりするなど、寮生活のさまざまなところで日本人としての行動をとった。

・成果・気づいたこと

日本は多くの人に知られており、好かれているが、よく「間違った」日本が見受けられることである。特にデンマークは日本人が少なく(3ヶ月生活していたが一度も見かけたことはなかったほど)、SNS やインターネット等でしか日本文化の情報が得られないため、断片的に切り取られていたり(日本人は謝る時は常に土下座をするなど)、誇張されていたりすることが多かった。これらの間違ったイメージを正すのは私たち本当の日本人でしかできないと考え、少しでも違和感を感じたら「実際の」日本を教えるようにした。また、それでも代表的なものしか知られていないので、関西人としてローカルな文化、あいさつ、食事なども伝えるように努めた。最終的には生徒全員が(文字通り例外なく全員が)「なんでやねん」を完璧なタイミングで言えるようになるまで成長した。

(3) エヴァンジェリスト活動について

・具体的な活動内容

一つ一つ書くと量が多くなるため、大きくまとめて3つにする

① イベントの開催、出展、登壇

対象・人数：イベントに参加された方(数百人規模)、特に保護者や後輩に向けて

実施場所：在籍している学校、トビタテ留学体験発表会、京都府、大阪市の高校、福井市でのイベント、(大阪府)河内長野市でのイベントなど他

実施時期：11月、12月

具体的な活動内容：多くの場所で留学体験を発表する機会があり、そこで留学内容の発表をし、同時にトビタテの良さを伝えた。

イベントの開催・出展では、他のトビタテ生と協力し、トビタテの魅力を伝えるオンラインイベントの開催や、複数の地域イベントでVRを使用した留学体験ブースとトビタテ制度の紹介ブースの出店を行った。将来的には滋賀でイベントを行いたいと考えている。

② SNS を活用した留学経験の共有

対象・人数：SNS のフォロワー(約 800 人)

実施場所：Instagram

具体的な活動内容：トビタテ用のアカウントを運営し、留学内容を紹介している。Note も準備中であり、近日中に公開する予定である。

③ 11 期に応募する後輩のサポート！

対象・人数：トビタテ！11 期に応募する高校生(相談は 20 名以上、添削は 10 名程度)

11 月をすぎると非常に多くの人から相談をいただき、それぞれの思いにあった計画と一緒に立てていた。あるトビタテ生と共に「11 期応募ガイド」の投稿を作成した。また、現在(12 月)は応募書類の添削作業を行っている。本当に多くの人から相談や添削依頼をいただき、トビタテの精神の軸である「恩送り」ができていますと実感した。

(4) その他

・留学中の活動を通して最も成長した経験とそこから学んだこと

普段の生活である。授業は 1 日 2 コマしかなく、その後は全て自由時間。何か困ったことがあれば助けてくれる友人が常に隣にいて、Uncomfortable だと感じればやらなくていいという寛容さがある環境で、「頑張りすぎなくていい」ということを学んだ。幸せになるために最も大切なことだと思う。

少し頭痛がしても出勤・登校するのは本当に効率的なのだろうか？やりたくもないことを周りに合わせてやることは本当に人生に良い影響を与えているのだろうか？私はそれより、自分の体と心をしっかりとケアして、絶対に無理をせず、常に 80 パーセントの元気を出して、余裕を持って生きていきたい。

・あなたにとって留学の価値

「人は幸せになれる」という発見。この留学がなければ絶対にそんなことはわからなかった。今まで考えていたこと全てがどうしても良くなるほど、考え方が 180 度変わった。一生忘れることのない幸福な経験と、「友人」を超えて「家族」と呼び合う仲間との関係と、それらを支えてくれた環境。この留学は私の人生を完全に変えてくれた、ある種の恩人だといえるだろう。間違いなく人生で一番楽しい時間だった。

派遣留学生個人番号 2529107

在籍学校名 米原高等学校

留学状況報告書

1 留学期間

令和7年8月3日～8月23日

2 留学先国・地域

フィリピン国

3 活動概要

(1) 探究活動について

・探究活動の問い

グローバル化が進む社会での日本語教育のあり方とはなんだろう。

・問いに対して留学前に立てた仮説や想定した答え

グローバル化が進む社会での日本語教育のあり方とは、年齢が低いうちから在日外国人と交流を行い、日本語教育への興味関心を広げて、未来の社会を育てることだと考えた。

日本語教育の発展のために、日本語教育に興味を持つ人を増やすことが重要だと思い、次世代の育成、若い人たちの興味関心を高めることが必要だと考えた。そのために、地域ごとに学校で、地元を舞台に在日外国人と生徒を対象として、地元を舞台にしたイベントを行うことを考案した。例えば、滋賀県では、琵琶湖のゴミ拾いのイベントを開き、日本人の生徒と在日外国人で交流しながら地域に貢献するというものを行う。

・探究活動の内容

- ① In 日本 米原市の日本語教室を訪れ、日本語教師の方や生徒にインタビューを行う。また、教室の様子を知る。
- ② In 日本 ALTの方々に言語教育についてインタビューを行う。
- ③ In 日本 日本語教育の現状、日本語教師について調べる。
- ④ In the Philippines 現地の方や先生にインタビューを行う。
- ⑤ In the Philippines 現地の日本語学校を訪問し、日本語教師を体験する。

・探究活動の成果

- ① の成果…日本語を学ぶ在日外国人の方と日本語教師の資格を持っているわけ

ではない地元の日本人がお互いに歩み寄りながら、言語を学び教え合っている様子を見て、言語を教える時の人への思いやりの大切さを学んだ。しかし、日本語を教える方に対しての補償や人手の確保が問題であることがわかった。

- ② の成果…ALT の多くの方は日本の文化や人に言語を教える魅力を感じてこの仕事についてと回答していた。また、言語学習で大切なのは、人と関わることであるという人が多かった。
- ③ の成果…日本に興味を持つ人や日本で働きたい人が増えたことにより、日本語教育の需要は高まっている。しかし、肝心の日本語教師の数が足りなかったり、彼らの状況がよくないことが問題となっている。
- ④ の成果…フィリピンの方は多言語を学ぶことについて意欲的な人が多かった。また、現地の日本語学校のフィリピン人の先生から大切な考え方を学べた。
- ⑤ の成果…私が訪れた日本語学校は日本で働く人たちに教えていた。一人ひとりの目的に寄り添って、彼らに向き合って、言語を教えることが重要だと改めて感じた。

・活動する中で、上手くできたことや成功したこと

現地の日本語学校で、日本語を現地の日本語を学んでいる人に教えていたときに、日本語を学ぶのは難しいけど、私たちともっと話したいから日本語の勉強頑張るねと言ってもらえた。それを聞いて、私は本当に嬉しくてたまらなかった。私はここから、日本語教師の魅力を自分の身を持って体験することができた。これは現地に行かなければできない最高の体験である。この嬉しさや喜びをもっとたくさんの人に広めることができれば、もっと日本語教育のよさを広められると思えた。

・活動する中で、上手くできなかったことや失敗したこと

日本語を教えることがとても難しかった。日本語学校や日本の日本語教室でも、現職の日本語教師と比べて明らかに教えたことが伝わっていなかった。現地での経験を通して少しは日本語をわかりやすく教えられるようになったが、やはり留学前にもっと日本語を教える練習をするべきだった。もし次回、留学に行く機会があるなら、事前の準備をもっと徹底的にするべきだと思った。

・今回の探究活動から得た学びと今後の教訓

日本語を教えるに限らず、言語を違う言語・文化を持つ人々に教えることは、本当に難しいけど、なにより楽しいことであると、身をもって学ぶことができた。この喜びをもっといろんな人に知ってほしいと強く思う。現地の日本語学校のフィリ

ピン人の先生が、こんな素敵な言葉を言っていた。「単に日本語を学ぶんじゃなくて、地域に根付いた言葉を話せるようになってほしい。」この日本をさらに地域に細かく分け、その人とうまくやれるように言語を教えるに対し彼女は強い思いを持っていた。私はここから、日本語教育に「地域」というキーワードを見つけ、それを中心に探究をさらに深めていきたい。

- ・今回の探究活動を踏まえ、次に取り組みたい探究活動

問い:言語を教える楽しさを広げるにはどうすればよいだろう。

探究活動:言語に関するイベント、例えば日本語教室や国際交流に参加して、言語を教える楽しさを広げている方達や物事を調査する。

(2) アンバサダー活動について

- ・具体的な活動

8月5日(火) 地元の日本語学校で日本語を教える。

また、日本の文化について伝える。

8月8日(金) 現地でできた友達に、日本語を教える。

日本の食文化や漫画文化について伝える。

- ・成果・気づいたこと

元から日本に対して好意的に思ってくれていたフィリピンの方達に、もっと日本のことを大好きになってもらえた。彼らは全員、日本語を学ぶことは難しいと言っていたが、私たちともっと漫画や和食など日本のことを話せるようになりたいから勉強頑張るね、と言ってもらえた。また、交流しているうちに、私は今彼らにとっての日本人代表なんだと改めて思うようになり、自分の言動が彼らの今後の人生で日本を好きでいることの妨げになってはならないと強く決意した。

(3) エヴァンジェリスト活動 (予定)

- ・タイトル:米原留学布教計画

- ・達成目標:自分の身の回りにいる人、例えば、米原高等学校の生徒、米原市の学生たちに留学の魅力と自分の日本語教育に対する見解を広める。

- ・対象 :米原高等学校の全生徒、米原市の人

- ・実施時期:10月~12月

- ・活動内容:米原高等学校のトビタテ生で、米原高等学校、米原市の人に留学の魅力をプレゼンテーションで伝える。米原高等学校では、全校集会の時にプレゼンを行ったり、放課後に興味がある人たちを対象に質問をしてもらう機会を設けたりする。また、米原市の人に留学の魅力を伝える機会をつくることも考えている。

(4) その他

- ・留学中の活動を通して最も成長した経験とそこから学んだこと

フィリピンに来て4日目、街の人にインタビューする時、異国の地で英語を使ってインタビューすることに緊張するあまり泣いてしまったこと。そのとき先生が、「They really like to talk to people. They are so kind. So, you don't have to be anxious. Talking to them makes them happy.」と励ましてくれた。そこから、人々の優しさを信じて、勇気を出してとにかくチャレンジすることが大切だと考えを改めた。その後のインタビューでは、フィリピンの人々の優しさのおかげで、自分からたくさんの人に声をかけられるようになった。いつもと違うところで、違う言語で、知らない人にインタビューするのは本当に怖かったけど、自分のインタビューへの努力や強い思いが誰かを幸せにしていたら嬉しいと今では思っている。

- ・あなたにとっての留学の価値

ハプニングを経験し、自分、もしくは他の人に自分で助けを求めて解決する機会を得ることができる。私は今回、3週間しかない留学のうち第二週目の1週間を体調不良と入院で失ってしまった。これは、完全に予期していなかったことで、予定していた活動ができなくなってしまった。しかし、この経験があったからこそ、異国の入院の様子を知れたし、たくさんの方の優しさに感動することができた。ハプニングは「なにか」に挑まないと起こらない。その「なにか」に、留学はピッタリだと思う。

- ・今後の展望（今回の探究活動を踏まえ、次の取り組み探究活動）や留学成果を滋賀県に還元するアイデア

私の地元である米原市の人々に留学の魅力、しいては言語を教え学ぶ楽しさを広げるために、これらを伝えるイベントを中学校や高校、市役所などで行いたいと考えている。

未来を描け 滋賀の海外留学応援プログラム

発行：滋賀留学支援コンソーシアム事務局（滋賀県教育委員会事務局高校教育課内）

Newsletter
#2
2026.3.30

2/7（土）2025年度 派遣留学生 成果報告会を開催！



- 2月7日（土）に、滋賀県庁にて、2025年度の派遣留学生による成果報告会を開催しました。岸本副知事・村井教育長からメッセージをいただき、派遣留学生が海外での探究活動の成果を発表しました。
- 本プログラムに御寄附を支援いただいた企業様や保護者様、一般観覧者の方にも多くお越しいただきました。
- 成果報告への質疑応答の時間を通じて、お越しいただいた方と交流もできました。
- 生徒たちが留学で得た学びを深めるとともに、留学成果を様々な人たちに伝える場となりました。

岸本副知事・村井教育長からのメッセージ

生徒の発表の様子



2026年度 派遣留学生（新高校1年生）を募集します！

- 「未来を描け！滋賀の海外留学応援プログラム」は、2026年度の派遣留学生（新高校1年生）を4月8日から15日まで募集します。※新高校2・3年生の募集は締め切りました。
- 応募や応募に関するお問い合わせは、在籍している学校を通じて、受け付けております。

詳しくは、滋賀県教育委員会HPをご覧ください URL <https://www.pref.shiga.lg.jp/edu/school/kokusyu/333762/333982.html>

『未来を描け！滋賀の海外留学応援プログラム』に御支援いただいた皆様

公益財団法人
河本文教福祉振興会

KOHOKU

関西みらい銀行

SHIGA BANK

ITOCHU

伊藤忠商事

近江鍛冶株式会社

新木産業株式会社

大塚産業マテリアル

OSK 大崎設備工業

第一生命

滋賀中央信用金庫

草津電機

日本ソフト開発株式会社

HIYOSHI Ecological Services

株式会社ナカサグ

YANMAR

Make History Ogakame

住友生命

東京海上日動 鉄屋商事株式会社 川島酒造株式会社 有限会社 T&S 塚本サルチャー様 匿名3者

令和 7 年度 収支決算書

滋賀留学支援コンソーシアム

収入の部

(単位：円)

科目	摘要	決算額
交付金	日本学生支援機構 交付金	17,490,520
繰入金	滋賀県子ども・若者基金繰入金	5,064,520
	同繰入金（寄附金積立分取崩し）	9,943,341
一般財源	滋賀県一般財源	185,042
寄附金	寄附金収入	920,000
計		33,603,423

支出の部

(単位：円)

科目	摘要	決算額
奨学金等	奨学金	9,100,000
	留学準備金	18,620,000
運営経費	人件費	4,099,218
	謝金	377,100
	旅費	202,380
	食糧費	17,632
	消耗品費	133,023
	保険料	6,160
	使用料	127,910
計		32,683,423

(単位：円)

	摘要	決算額
当期収支差額	寄附金収入	920,000

※当期収支差額 92 万円は、本事業に係る寄附金として、子ども・若者基金に積み立てます。

本事業に係る寄附金積立残高は次のとおりです。

(令和 7 年度決算から、本事業に係る寄附金積立残高を参考情報として記載しています。)

令和 6 年度末残高 12,345,837 円
 + 令和 7 年度寄附金積立額 920,000 円
 — 令和 7 年度寄附金取崩額 9,943,341 円
 = 令和 7 年度末残高 3,322,496 円